

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No.186

2005年

9～10月号

## 行 事 案 内

### 9月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 9月11日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 秋の渡りの季節です。思いがけない  
鳥が来ているかもしれません。注意  
して観察しましょう。  
解 散 正午  
担 当 中野、飯島、北原、桑森、小林(寿)、  
松田、野口(紀)

めです。多数の参加者を希望してい  
ます。軍手、ゴミ袋は事務局で用意  
いたします。火ばさみのある方はお  
持ちください。

解 散 午後3時  
担 当 染谷、事務局

### 第5回ジャパンバードフェスティバル

期 日 11月5日(土)、6日(日)  
会 場 親水広場、手賀沼公園  
案 内 メイン会場は親水広場と手賀沼公  
園です。今年は手賀沼公園会場が充  
実され、学生、NPO 団体は手賀沼  
公園会場の予定です。したがって当  
会のブースも手賀沼会場になりそ  
うです。当会の展示内容について計  
画中です。皆様のご協力をお願いし  
ます。

### 10月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 10月9日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 気候の良い季節です、来はじめたカ  
モたちを探しましょう。またサシバ  
に替り他のワシ・タカの出現を期待。  
解 散 正午  
担 当 松田、飯島、北原、桑森、小林(寿)、  
中野、野口(紀)

## 幹 事 会

### 手賀沼クリーン作戦

期 日 10月9日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午後1時30分  
案 内 (探鳥会開催日の午後です)  
手賀沼周りのゴミを集めます。場所  
は柏市沼南側の探鳥ポイントを中  
心に清掃を行います。環境保全のた

日 時 9月11日(日) 午後1時30分  
場 所 我孫子市民会館 第6会議室  
議 題 JBFの内容検討と担当につい  
て  
会報187号記載記事について  
その他  
(議題を提出する場合は事務局にご  
連絡下さい。)

## 日本へのカッコウ科の渡来状況について

飯泉 仁

全国の鳥友が参加し、観察記録の情報交換をしているメーリングリスト jbnest - ml (前身は Jb - nest) のカッコウ科の渡来状況のとりまとめを 1998 年から担当しています。1998 年から 2005 年 6 月までの観察記録を整理したものを報告します。

### 1. 文献が報告しているカッコウ科の渡来時期

荒垣 (1988) は、日本の自然・動植物についての情報を整理し報告しています。その中でカッコウ科の鳥類については、「ツツドリが一番早くて 4 月中下旬、その次のジュウイチが 5 月上旬、カッコウはそれより遅く 5 月 20 日前後で、ホトトギスが 5 月末頃やってくる」と報告しています。

### 2. 日本への渡来時期

1988 年から 2005 年までのツツドリ、ジュウイチ、カッコウ、ホトトギスのお便りで、国内に最も早く渡来した観察時期を整理してみると下記のような結果です。

(2005 年は暫定データで整理)

年	98	99	00	01	02	03	04	05
ツツドリ	4/15	4/21	4/18	4/20	4/14	4/14	4/18	4/15
ジュウイチ	4/30	5/8	5/8	5/4	5/14	5/6	5/1	5/11
カッコウ	5/5	5/3	5/4	4/29	4/27	5/16	4/22	5/16
ホトトギス	5/6	5/9	5/13	5/4	5/15	5/15	5/17	5/18

#### (1) ツツドリの渡来時期について

当メーリングリストのお便りでは、荒垣 (1988) が述べているのと同様の時期に渡来していることがわかります。

#### (2) ジュウイチの渡来時期について

ジュウイチのお便りは、カッコウ科の中でも最も少なく、観察記録が途切れ途切れの為判断しにくいのですが、5 月 8 日前後という結果です。

#### (3) カッコウの渡来時期について

カッコウのお便りは、最も早かったのが 2004 年 4 月 22 日、最も遅いのが 2003・2005 年 5 月 16 日でした。カッコウ科の鳥類の中でも渡来時期が最も変動していたという結果でした。

#### (4) ホトトギスの渡来時期について

ホトトギスのお便りは数が最も多く、データとしての精度は最も高いと思います。最も早いのが 2001 年の 5 月 4 日、最も遅いのが 2005 年の 5 月 18 日でした。カッコウほど大きくありませんが、渡来時期が年によって変動するという結果でした。

### 3. カッコウ科の鳥類の渡来順番

既に報告したカッコウ科の渡来時期と文献が報告しているカッコウ科の鳥類の国内への渡来順番を比べてみると、ツツドリ、カッコウ、ジュウイチ、ホトトギスと整理できます。荒垣 (1988) が述べている、ツツドリ、ジュウイチ、カッコウ、ホトトギスの順番とは明らかに違ってきます。しかも、荒垣 (1988) が 5 月 20 日頃としているカッコウの渡来時期は、それよりも 14 日以上も早い年が多いという結果でした。あわせて、荒垣 (1988) が 5 月末頃と述べているホトトギスの渡来時期もそれより早い 20 日前後も早いという結果です。又、蒲谷 (1996) がホトトギスの渡来は、「戦前の東京内外での記録では 5 月 25 日から 6

月 17 日の間に声が聞けた」と報告しており、メーリングリストでの観察記録の結果が、何かの要因で渡来時期が早まったものか、渡りの途中のものが観察されたことによる結果なのか、興味深いところです。

#### 4. 千葉県内のカッコウ科の渡来状況

千葉県内のカッコウ科の初認状況を整理してみると、次の通りです。

年	98	99	00	01	02	03	04	05
カッコウ	5/5	5/13	5/13	5/10	5/18	5/16	5/11	5/16
ホトトギス	5/7	5/14	5/13	5/13	5/19	5/17	5/18	5/24

全国の渡来状況と比べてみると、国内で初認されてから 2~7 日経過して千葉県内で初認できていることがわかります。また、カッコウは、荒垣(1988)が 5 月 20 日頃渡来すると述べているのよりも早く渡来していることがわかります。さらに、5 月末頃渡来するとしているホトトギスも 7~20 日程度も早く渡来していることがわかります。

(引用)

荒垣秀雄 編 . 1988 . 朝日文庫 四季の博物誌 .

p174 - 175 . 朝日新聞社 .

蒲谷鶴彦 . 1996 . 日本野鳥大鑑 . 下巻 . p170 . 小学館 .

## 行 事 報 告

### 6 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2005 年 6 月 12 日 9:00~12:00

晴れ 気温 28

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、オオタカ、サシバ、チョウゲンボウ、キジ、コブハクチョウ、カルガモ、バン、オオバン、コアジサシ、キジバト、ツバメ、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、キビタキ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 36 種

番外 カワラバト、コジュケイ、アイガモ  
<探鳥班> 猪爪敏夫、榎本右、佐々木隆、赤尾完、松本勝英、松田幸保、北原建郎、西巻実、飯島博、大久保陸夫、桑森亮、類地佑子、玉井修一郎、諏訪哲夫、小川克子、谷山晴男、小口勝久、堀口勝、染谷迪夫、中野久夫、鈴木静治、岩田孝之、岩田マキエ、野口

隆也、信澤正一、吉田隆行、間野吉幸、小林秀美、小玉文夫、首藤佑吉、八木よし子、柴本三弘、植田啓介、木村稔、田丸喜昭、田中功、武藤康之、岩盤孝義、小林寿美子

参加者 39 名

<カウント班> 飯泉仁、飯泉久美子

調査種	上 沼	下 沼	合 計
カイツブリ	6	3	9
カワウ	8	44	52
アマサギ	0	22	22
ダイサギ	0	4	4
チュウサギ	0	1	1
コサギ	3	8	11
アオサギ	1	4	5
コブハクチョウ	0	1	1
カルガモ	6	29	35
オオバン	0	17	17
コアジサシ	0	1	1
合 計	24	134	158

## 7月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2005年7月10日 9:15~11:45  
薄曇・風弱 気温30

<認めた鳥> カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、コガモ、オオタカ、キジ、オオバン、コアシサシ、キジバト、ホトトギス、カワセミ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計29種

<探鳥班> 榎本右、村瀬和則、田丸喜昭、山本貞江、小林秀美、小川克子、大久保陸夫、桑森亮、小口勝久、川田光男、赤尾完、谷山晴男、飯島博、猪爪敏夫、常盤孝義、諏訪哲夫、類地佑子、中野久夫、松田幸保、松本勝英、松本葉子、野口隆也、川村美恵子、佐々木隆、植田啓介、田中功、間野吉幸、太田暁

子、谷沢幸次、鈴木静治、坂巻宗男、千野繁、西巻実、小玉文夫、飯泉仁、飯泉久美子、中森純也、柴本三弘、柴本法子、北原建郎  
参加者40名

<カウント班> 飯泉仁、飯泉久美子

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	0	5	5
カワウ	18	60	78
ヨシゴイ	2	1	3
ダイサギ	2	2	4
チュウサギ	0	1	1
コサギ	0	1	1
アオサギ	1	2	3
コブハクチョウ	0	1	1
カルガモ	0	12	12
オオバン	6	2	8
コアシサシ	0	51	51
合計	29	138	167

## 伊香保・榛名探鳥会

6月4、5日

### 伊香保探鳥日記

桑森 亮

6月3日(金)夜、明日の伊香保榛名探鳥会の用意。観察道具に着替え、雨具など、飲み会用のおつまみ類もリュックに詰め込む。11時半に就寝。

6月4日(土)6時15分起床。洗顔、トイレ、朝食といつもとと同じペースでも、天気はどうかな、曇りだけど明日は晴れそう?心は何となしにうき足たつ。7時20分に家を出て、天王台駅前ファミマでお酒を購入。7時40分頃、我孫子駅に着くと先着は数人、皆さんいつも早い。バスに乗り、私は何となしに後ろの座席に座る。無意識に三水の酉を考えるのだろうか。順次参加者がそろい、定刻8時には22名が全員集合、出発。幹事さんは、小玉さんと染谷さん。首藤さんが所用で欠席のため染谷さんがピンチヒッターとのこと。染谷事務局長には本当にいつもご苦労様と頭が下がる。

常磐道から関越道と走り、上里SSで休憩、昼食の弁当を調達。天候は曇りなれど明日は晴れて雲は抜けるはず。走行は極めて順調、車中でしばし休憩、仮眠。高速道を下りて榛名山系に入ると、初夏の緑が清々しく、ツツジやミズキなどがあちらこちらに咲き乱れる。景色に見とれつつ、予定到着時刻は12時のところ、30分ほど早く伊香保森林公園に到着。すわ探鳥と心ははやるが、まずは腹ごしらえと管理棟脇の休憩所で早めの昼食をとる。

やや小雨模様の中、雨具を携え管理事務所から山道に入り、満開のツツジに見とれつつ鳥の声を聴く。まずはカラ類のコーラスが迎えてくれる。しばらく山を登ると「チヨチヨグイーッ」の囀りが聴こえだし、「しだの池」付近ではあちこちでグイーッ、グイーッとセンダイムシクイの宴会が始まっている。ここで池に留まり探鳥&写真撮影組と森林探鳥組に分かれ

る。この池は鳥たちの水場で、コルリ、クロツグミなどが現れる由。

私はというと、小雨模様でもあり、今日は聴く見るに徹しようとスコープとカメラを車中に置いて、女性を含め 10 名ほどの森林探鳥組に。山を歩き出すと、カラ類に混じり、森の奥からホトトギス、ツツドリの囀りが、イカルの流れるような節回しが聞こえる。しばらく行くと、チーチーチーとの声が聞こえ、染谷さんからヤマガラ地の鳴きと教わる。道中、シジュウカラ、ヤマガラが目にとまる。30 分も進むと、小さな谷間でピーリーと澄んだ声だが聴きなれない節回しが聞こえる。頭上を見上げると小鳥が数羽樹間をチラチラしている。双眼鏡を取ると、1 羽が枝に止まり白い腹と黒い喉でオオルリのように見える。飛立つと背中の瑠璃色が確認でき、やはりオオルリだ。歌声が不安定で、染谷さんが「へたくそ!」と思わず叫ぶ。おいおい、オオルリが逃げ出すと思うが、意外と機嫌よく数羽がここで姿を見せてくれる。近辺で繁殖しているのだろうか。この前後から更に上では、ミソサザイが山間で騒々しい囀りを聞かせてくれる。私にはヒバリとツバメが大声で喋っているように聞こえる。

「むし湯跡」を過ぎて先を進むと、小さな祠があり、私の今回の目標であるトラツグミとコルリの探鳥祈願。屏風岩をめざして更に進むと、遠くの山から雷鳴、雲行きが怪しくなる。出発してからもう 1 時間半ほどになっており、雨が来る前にと下山をはじめ。帰りにはミソサザイに混じってコルリのチャラチャラチャラ...の音があちこちで聞こえてくる。何とか見れないかと双眼鏡を覗くが如何せん少し遠いようだ。残念。

「しだの池」で写真撮影組と再度合流。池では、1 時間半ほどの間に 10 種類余りの鳥が現れたとのこと。クロツグミ、アカハラ、シロハラ、コルリ、キビタキ、カラ類など、皆さん大満足の様子。クロツグミと聞いて羨ましくなり、皆さん帰り支度で戻りはじめ中、最後まで池に粘っていると、出ましたクロツグミ。で背中の色合いはシロハラに似た感じだが胸の模様はクロツグミが水浴びをしている。森林探鳥組の最後 4 人がじっくり観察。粘って良かった。少し遅れてバスに戻ると、小雨が降り始める。本日の探鳥はこれで終了。念願のコルリは明日に持ち越し。

宿泊所までの道中は森の樹木の勉強会で、ミズキ、ヤマボウシ、ハウノキ、トチノキなどの木や花を教わる。この会は、鳥だけでなく自然全般に詳しい方が多い。

3 時過ぎに宿舎の伊香保東急ピラに到着。立派なリゾートホテルで、これまでの一泊探鳥会では民宿や山荘泊まりが多いらしいが、今回はいつもよりハイグレードだ。夕食までにはかなり時間があり、ゆっくりお風呂につかり休憩。ここでは、「かま風呂」というサウナのようなお風呂があり、じっくり汗を流す。

夕食前に、我が部屋では早速宴会の予行演習。同部屋の村上さんからモンゴル土産のウォッカをいただき、モンゴルの探鳥話に耳を傾ける。クロハゲワシ、ソウゲンワシ、オオノスリなど、モンゴルでは猛禽類が普通に見れるらしい。

アルコールの下準備ができると、18 時から夕食。舞台のある広間での本格的宴会で、守る会の宿泊探鳥会では始めてとのこと。美味しいお料理とお酒で鳥談義も盛り上がり、初参加の方をはじめ全員の自己紹介もあり、楽しいひと時を過ごす。

その後は、恒例の幹事部屋での 2 次会。先輩方の豊富な経験と知識にいつもながら感心し勉強になる。ここでもやはり、モンゴルの鳥が話題になる。皆さん、海外まで探鳥に出向くのかと驚かされる。因みに私は 25 年前の新婚旅行が唯一の海外経験。明日の有志による早朝探鳥の出発時間は 5 時と確認し、飲み会はお開き。10 時過ぎに就寝。

6 月 5 日(日)午前 4 時半起床、5 時には同部屋の植田さんとロビーに。外に出ると、朝の冷たい空気は気持ち良く、天気も晴れ上がっている。早速、チチチチとキセキレイの鳴き声がし、数羽がホテルの回りを飛び交い軒先に止まる。空を見上げるとイワツバメが舞っており、ツバメの尾羽をちょん切ったように見える。ここではキセキレイやイワツバメが当たり前のように飛んでいる。

皆さんが揃い出すと、先ず先陣 10 名ほどが探鳥に出る。私は 2 陣組で間野さんをヘッドに 6 名で出発。ホテル脇の坂道を登り、側道から路地を抜けて伊香保温泉の石段街に出る。

旅館や土産物屋が両側に並ぶ石段を登り詰めると伊香保神社にたどり着き、境内奥の石段を更に登り、この石段が山道として続く。

山道に入ると静かな中にもカラ類やキジバトの声、耳を澄ますとケラ類のドラミングが聞こえる。アカゲラだろうか。カケスのジェージェーも聞こえる。中小の鳥たちが樹間を動く。森の中から様々な鳥の音が聞こえるが識別は難しい。そのうちにグループの列は縦に長くなり、間野さんと私が最後尾となる。とすると、中型の鳥が動き、目を凝らすと間野さんのクロツグミだの声。直近で囀っており、腰を屈めて双眼鏡を覗くとクロツグミ をキャッチ。フルートのような素晴らしい声を堪能。

山の中腹を過ぎると麓の森からミソサザイやキビタキの囀りを遠くに聞きながら頂上付近のスケートリンクに着く。隣接して伊香保からのロープウェイの終着「見晴台駅」があり、ここで先陣から逸れた中西さんと合流。

更に先の見晴台をめざして歩き始めると、下ってくる先陣の一団と出会う。

見晴台からは素晴らしい眺望で、渋川市街地周辺を下に見て対面には赤城山系が峰を連ねる絶景を望める。付近ではヒガラ、コガラ、ウグイスが近いところで囀り、ホオジロは電線や梢でけっこう長い間囀ってくれる。ホオジロの囀りは多彩で難しいと感じていた私にはグッドチャンスで、じっくり聞く。

この間、間野さん他 4 名の皆さんは見晴台から何故か動かない。見晴台の近くの梢に、メジロ、ヤマガラ、エナガなど数種類の鳥たちが次々と現れたらしい。皆さん満足気で、写真家の中西さんはガッツポーズで見晴台から降りて来る。シャッターチャンスの連続だったのだろう。

帰りは来た道を戻る。途中、カケスが何羽か林間を飛び交う中、近くの枝に止まり全員で観察。カケスは声は聞こえるが普段暗がりについて見るチャンスは少ない。清岡さんはカケスを一度見たかったらしく、満足の笑みを見せる。下りも終わり頃、大きな鳥が動き、クイックイックという大きな声で鳴く。皆さん下りにいく中、逆戻りして鳥を探すとカケスを確認。ジェージェー以外の鳴き方を知り、鳥たちの多彩な鳴き方やまね鳴きを再認識する。

一人遅れて先行組を追いかけ、路地から側道の坂に出ると、清岡さんと植田さんが坂上から私を呼びとめ手招きする。二人で熱心に大木付近を見ている。駆けつけると、「小さなふくろうがいる。」との一声。えっ、ふくろう？と双眼鏡をとると葉陰のなかにアオバズクが身じろぎもせず、大きなまん丸の目でこちらを見つめている。図鑑で見ればかりのフクロウ類、中でも守る会のシンボル「ほーほーどり」に思いがけず初めて出会え、うれしくなる。第一発見者で私を呼び止めてくれた清岡さんに感謝、感謝。

ホテルに戻ると 7 時過ぎで、他の皆さんにアオバズクの報告すると皆さん驚きの顔。観察地点はホテルの直ぐ近くで、朝食を済ませると早速現地に他のメンバーを案内。ベテランの西巻さんや中野さんから「良く見つけたね。」の言葉。発見者の清岡さんの大殊勲打だ。10 名余りが集まってきて、それぞれ写真撮影や観察。近くの旅館の従業員や宿泊客まで何事かと覗きに来る。西巻さんの言によると、「止まっている大木の洞に巣があって、オスが見張り番をしているのだろう」とのこと。また、「昔は我孫子でもけっこう見れたが、最近はめっきり減って、すっかり珍鳥になっている」らしい。

アオバズク騒動も一段落すると、8 時 30 分にはホテルを出発し、昨日に続き伊香保森林公園に向う。現地到着後、9 時頃から昨日と同じコースで探鳥スタート。私は、昨日とコースを変え、スコープとデジカメを持って「しだの池」でコルリをねらうことにする。

探鳥を始めると、なかなか鳥は現れない。しかし、待つしかない。最初はシジュウカラが水浴びに、その後アカハラ、ヤブサメ（私は見逃し）、ヤマガラ、ヒガラなど出現。地味な色の小鳥はコルリ かキビタキ か？ は識別が難しいようだ。後半に入ると、出た！青い背中、白い腹、コルリ だ。水際を動き回る。デジスコを構えるが間に合わず失敗。でも、ついにコルリの色、全姿を見れて文句なし。この日の鳥果は昨日ほどではないものの、2 時間で 10 種類近くを観察。鳥の出現を待つ間、カラ類など周りを移動する小鳥を見て、森間の

囀りを大いに楽しむ。帰りの時間が近づき森林探鳥組が戻ってくる。こちらも、囀りなど声は昨日並みでゴジュウガラが見れたとのこと。

11時過ぎ、森林公園を出ると次は「ゆうすげ公園」で、公園内の木道を歩き散策。頭の白っぽいモズが現れるが、鳥は少ない。今回は時期がやや早かったようだ。

予定の探鳥を終えて、榛名富士、榛名湖など榛名の自然を満喫しつつ水沢へ、名物の「うどん」を味わう。

帰りのバスでは三水の西の会が始まり、お酒が回ると前、後ろで談笑の声。3時間余りが知らず知らずに過ぎてゆく。かくして、2日間の探鳥会は終幕となり5時半頃には我孫子駅着。

私には、目標としたクロツグミ、コルリの観察、山の夏鳥の囀り、加えてアオバズクにも出会い、大変充実した2日間でした。探鳥会の段取り、準備をしていただいた首藤さん、当日のお世話をいただいた幹事の小玉さん、染谷さんに感謝申し上げます。

<認めた鳥> トビ、キジバト、アオバト、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、アオバズク、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、コルリ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、シロハラ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計39種

<参加者> 間野幸吉、小林秀美、清岡万紀子、諏訪哲夫、中野久夫、井上正、西巻実、田中功、大久保陸夫、佐々木隆、吉田隆行、戸塚道、染谷迪夫、中西榮子、山住良子、柴本三弘、柴本法子、桑森亮、猪爪敏夫、植田啓介、村上稔、小玉文夫 参加者22名

---

---

## 笹川・浮島探鳥会

6月26日

---

---

### コジュリンは「草原のジャズシンガー」

吉田隆行

6月恒例の笹川・浮島探鳥会へ昨年に引き続き参加しました。新しく手に入れた一眼のデジカメを試したいと言う事もありましたので。

参加者16名、車4台に分乗ほぼ定刻に我孫子市役所前を出発。途中昼飯等をコンビニで仕入れる。

黒部川の狭い橋を渡ると目指す笹川の草原。幹事の下見で、ピタッシのポイントへ導かれるや忽ち、オオセッカが打上げ花火よろしく、引切り無しにジュークジュークと打ちあがりました。撮影する人には格好の題材、デジスコ、一眼は昨年に比べ全く忙しい。オオセッカは田中さんによれば、日本に千羽位で且つ3カ所で見られぬ希少種とのこと。黒い頭のコジュリンも草原に囀りを響かせていた。コジュリンは「草原のジャズシンガー」と諏訪さんに教えてもらいました。

成る程、言いて妙。鉢巻のコヨシキリも結構見る事が出来た。

11:50頃集合し土手に横一列に座ってお昼。僕のは100円お握り2個のささやかなもの。目前の草原にくりひろげられるオオセッカの囀り飛翔とコジュリンのジャズとの競演を見ながら、周りの方々と談笑出来た贅沢なランチでもあった。

午後は浮島へ行く。妙岐の鼻迄散策するもコジュリン、オオヨシキリ程度で鳥影は少なかった。

鳥合わせは栄町水と緑の公園にて行い、渋滞も無く帰る。天気も崩れず、それほど暑くもなく、期待を大幅に超える探鳥会であった。

鳥についてもっとよく知らないという鳥写真は様にならないと後日開かれた映写会で知らされました。来年機会を頂ければ再挑戦したいと思っています。

事並びに安全運転をしてくれた田丸さん、間野さん、北原さん、飯島さん有難うございました。

<認めた鳥> カワウ、ヨシゴイ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、

アオサギ、カルガモ、キジ、セグロカモメ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオセッカ、コヨシキリ、オオヨシキリ、セッカ、シジュウカラ、ホオジロ、コジュリン、カウラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 33 種

<参加者> 田丸喜昭、田丸メリールイス、佐々木隆、諏訪哲夫、北原建郎、桑森亮、中野久夫、吉田隆行、間野吉幸、大久保陸夫、田中功、猪爪敏夫、六角昭男、中西榮子、飯島博 参加者 15 名

---

---

### 日光白根山探鳥会

7月 17日

---

---

#### 標高 2000m 白根山に到達できるの？

飯泉 仁

宿泊探鳥会にはなかなか出かけられないけれど、日帰りだったらとのご意見を聞いていましたので、要望におこたえすべく企画したのが今回の日帰り探鳥会でした。朝 7 時に J R 我孫子駅に集合し、今井観光のデラックスバスに一行 25 名が乗り込み、一路白根山に向かいました。東京外環道・関越道を経て、沼田 I C を通過したのは 10 時前。ここまでは順調でした。

ところが、途中で村祭りのドラえもんの神輿が練り歩いているのを見ながらバスを進行させていた時に考えられない突然アクシデントが。10 時 15 分頃にバスの後部からパーンと何か破裂する音。少ししてバスの非常警告ランプとブザーがなり、バスが緊急停車。ドライバーの山口さんに聞くと、エンジンに装着されているエアコンプレッサーから出て空気タンクに向かう高圧エアホースの破損しているようだとのこと。バスを動かすことができない状況であることは間違いありません。

外気温がぐんぐん上昇していることと修理にかなり困難さがあるようなので、緊急停車した場所から 700m ほどのところにある片品村の施設まで移動して休憩・食事とすることとしました。白根山はすぐそこなのに…。

我々が緊急避難している間もドライバーの山口さんが奮闘してくれて、当座の白根山までのバスの手配ができました。尾瀬開発と看板のある地元のバスでした。

尾瀬開発のバスで白根山山麓にある丸沼高原ロープウェイ山麓駅に到着できたのは、13 時 30 分頃となりました。予定から 3 時間ほど遅れての到着となりました。

参加者の皆さんを無事に我孫子に帰着させるのも我々幹事の使命ですが、始発電車に乗って集合してくれた参加者一同のことを考えると、このまま帰るのもと思って、ロープウェイ山頂駅から 500m くらいの遊歩道と駅周辺に咲いているコマクサの花を楽しんでもらうことにしました。午後一番暑い時間帯で鳥影は少なかったのですが、それでもルリビタキ・ミソサザイ・ウソ・キクイタダキが自慢の声を披露してくれました。

山頂駅周辺を約 1 時間 30 分ほど散策し、16 時に山麓駅に再び移動しました。今井観光の山口さんと連絡をとると、バスの修理はまだ完了していないので、尾瀬開発のバスで我孫子に帰着することとなりました。急遽ピンチヒッターとして我孫子までの指令を受けた尾瀬開発のドライバーの冷静沉着に運転で 20 時 30 分我孫子駅に帰着となりました。

バスの突発のアクシデント発生にもかかわらず、我々乗客の便宜のために最大限尽力してくれた今井観光の山口さん、沼南営業所からバックアップしていた福井部長に感謝。また、幹事の指示に黙って従ってくれた参加者の皆さんにも感謝。

<認めた鳥> トビ、キジバト、アマツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ピンズイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ウグイス、ルリビタキ、ウグイス、メボソムシクイ、キクイタダキ、コガラ、ヒガラ、ホオジロ、ウソ、ニューナイスズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 合計 22 種

<参加者> 野口幸子、伊藤貴子、小林秀美、染谷迪夫、山本貞江、小島昭江、飯島博、中西榮子、鳩川堯、鳩川幸子、佐々木隆、諏訪哲夫、西巻実、吉田隆行、中野久夫、大久保陸夫、植田啓介、間野吉幸、井上正、川上貢、六角昭男、猪爪敏夫、田中功、飯泉仁、飯泉久美子 参加者 25 名



## 水辺の探検隊探鳥会

6月26日

染谷迪夫

千葉県環境財団による「手賀沼水辺の探検隊」の「野鳥」を当会が担当しました。参加者は小中学生ですが、今回は小3から小6までの30名でした。水の館の研修室で島崎純造隊長から当日配布した資料と諸注意事項の説明、首藤美恵子さんの鳥に関する楽しいお話を聞いた後、親水広場にある噴水前広場から東へ遊歩道沿いに峠下広場までの観察です。

噴水まえ広場では、研修室で学んだ、バリケンの鼻の穴や耳の位置を実際に確認したり、遊歩道沿いでは、オオヨシキリの囀りを聞いたり、カワウ、カルガモ、アオサギを観察したりしました。途中、熱心の観察のあまり峠下広場までは辿り着けず、Uターンでした。しかし充実した観察でした。蒸し暑い日でしたが、参加した子供たちは元気でした。

・観察コース：手賀沼遊歩道沿いを親水広場

の噴水前広場より東へ峠下広場

・実質探鳥時間：午後2時～3時30分

<観察した鳥> カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、オオバン、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、シジュウカラ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、バリケン 20種

<探鳥指導に参加した会員> 島崎純造、首藤美恵子、鈴木静治、染谷迪夫

## ホタルの夕べ

7月31日

### ヘイケボタルの数 21匹強

染谷迪夫

蒸し暑い夜であったので、ホタルはよく出てくれたように思う。去年、良くホタルが出る場所を整備したので、ホタルの数が心配であったが、去年以上に出てくれた。

暗い斜面林の中で、ヘイケホタルの淡い光が点滅すると幻想的な気分になり、気分が安らぐ感じがする。ホタル・アカガエルの里付近ばかりでなく、数は少ないものの谷津全体

で観察できた。このまま谷津の整備と保護を続ければホタルは確実に増えるように思う。心無い人がホタルを獲っていくような噂を耳にしたが、そのようなことが無いように祈るばかりである。

<参加者> 野口隆也、野口洋子、中野久夫、松本勝英、松本葉子、末宗勝、末宗千恵子、類地佑子、類地晋朗、高橋かほる、高橋素子、桑森 亮、北原建郎、鈴木静治、青木義尚、戸塚 道、野口紀子、野口鉄蔵、染谷迪夫、小玉文夫 参加者 20名

## 映 写 会

7月23日

中野久夫

昨年に引き続き、今年も水の館の3階研修室で開催した。9名の方から328点のデジタル写真の発表、松田さんからビデオの発表があった。他に中森さんの飛び入り参加もあったが、画像取り込みに時間がかかり、残念ながらほんの一部しか発表できなかった。参加者も27名で盛会であった。

デジタル写真は我孫子近辺の鳥だけでなく、飛島や富士奥庭・朝霧高原など各所にわたり、さらにモンゴルやカナダ・バンクーバーなど外国の鳥もあり国際的になった。飛んでいる写真など、動きのある面白い写真がふえた。

松田さんのビデオは、ウサギ・アザラシ・カモシカ・ツキノワグマの動物シリーズで、非常に楽しい映像であった。

<発表者と発表点数>

{デジタル画像}・・・9名

・中野久夫：北新田の鳥・ウサギなど 40点

・野口隆也：手賀沼のミサゴ・ノスリなど 15点

・野口幸子：シジュウカラの巣立ち 4点

・田中 功：コチドリの交尾、キバシリの親子など 76点

・大久保陸夫：飛島・伊香保の写真ほか 36点

・吉田隆行：渡良瀬遊水地のベニマシコほか 40点

・諏訪哲夫：秋ヶ瀬のトラツグミ・クロジなど 40点

- ・村上 稔：モンゴルの鳥、ソウゲンワシ・アネハヅルほか 40点
- ・西巻 実：バンクーバーの鳥、ハクガン・ハクトウワシほか 40点

〔ビデオ〕・・・ 1名

- ・松田幸保：北新田のノウサギ・鴨川のカモちゃんほか 15分

<参加者> 松田幸保、柴田五郎、染谷迪夫、野口隆也、常盤孝義、吉田隆行、平岡孝、村上稔、佐々木隆、橋本清、伊藤貴子、川田光男、谷山晴男、大久保陸夫、北原建郎、野口幸子、伊藤禮子、柴本三弘、柴本法子、小玉文夫、田中功、中森純也、桑森亮、六角昭男、西巻実、諏訪哲夫、中野久夫  
参加者27名

---



---

## 納 涼 会

7月23日

---



---

### 電車はストップして一時はどうなるのか

北原建郎  
力作揃いの映写会が終わり、次の納涼会の会場「養老の滝」へと向かう途中、予期せぬ大地震があり、電車はストップして一時はどうなるのか心配をしました。しかし、歩いて来られた方もいて結局下記の20名が参加し(4名欠席)午後7時半過に無事終了しました。残念ながら、ちょっと盛り上がりかけた納涼会でもありました。

<参加者> 六角昭男、染谷迪夫、大久保陸夫、桑森亮、川田光男、谷山晴男、猪爪敏夫、諏訪哲夫、松田幸保、中野久夫、西巻実、田中功、小玉文夫、鈴木静治、木村稔、吉田隆行、村上稔、島崎純造、佐々木隆、北原建郎  
参加者20名

---



---

## 手賀沼学会へパネル出展

7月10日

---



---

### 手賀沼学会で水鳥激減の実態を訴える

榎本右

7月10日、中央学院大学で開催された第2回「手賀沼学会」大会のパネル展示で、当会は1977年から2004年までの水鳥個体数調査にもとづき、短期的に増減を繰り返した

からも長期的には減少の一途をたどっている手賀沼の水鳥の実態を発表し、その危機的状况に警鐘を鳴らした。

会場では10時から始まる午前の部に間野吉幸会長が、午後の部には佐々木隆さんと飯島博さんがパネル説明で対応、また、当会を代表して手賀沼学会の理事をつとめる宮下三禮さんも、開催時間終了の午後4時まで終始立会われた。

手賀沼学会は、手賀沼集水域が育んできた文化の総体を考える場として昨年7月に設立



された。大会は記念講演、口頭による研究発表とパネルセッション、展示による研究発表で構成されている。手賀沼を愛する熱意が生み出した発表の数々は、手賀沼を取り巻く文化風土の豊かさを示している。

展示に説明者を配し、来場者とのコミュニケーションを通して積極的に水鳥激減の現状を訴える当会の作戦は当たり、パネルに見入る人は熱心に質問し、説明する会員と意見の交換をする場面もあって、水鳥の減少に対する関心の高さを示していた。

定例探鳥会を終えた飯泉副会長夫妻をはじめ会員の皆さんも会場を訪れ、展示の反応に関心を寄せた。今回提示した「水鳥個体数の激減！」のテーマは、手賀沼の貴重な自然と水鳥を守るために、機会あるごとにアピールすることが重要であり、減少を食い止めるための具体的な行動が今後の課題であろう。

---



---

## 幹 事 会 報 告

---



---

日 時 7月10日(日) 13:30~16:00  
場 所 我孫子市民会館 第2会議室  
議 題 1.手賀沼学会展示パネル参加につ

- いて
2. 17年度下期 2月、3月の行事予定
  3. 会報 186号記載記事
  4. 17年度第1四半期会計報告
  5. イベント報告  
JBF実行委員会  
里山シンポジウムに参加して
  6. その他  
エンジョイ手賀沼反省会

美手連 17年度総会  
サポートセンター意見交換会  
自然の権利基金よりの依頼

### 17年度下期行事予定(2月～3月)

- 02/12(日) 定例探鳥会  
02/25,26(土,日) 山中湖探鳥会  
03/12(日) 手賀沼探鳥会  
03/26(日) 銚子カモメ探鳥会

## 会員からのお便り

\* 会員の高津と申します。会合にも出ない幽霊会員ですが、会報はいつも楽しく読ませていただいております。

「鳥だより」にツミの記録を送らせていただきます。成鳥雄1雌1巣立ち雛3場所：つくし野(狭い斜面林)

4月頃から頻りにツミの声を聞くようになったのですが時間が無くて確認には行けませんでした。昨日(7月8日)、ようやく見に行ったところ、もう幼鳥が出ていました。親鳥が餌運びしていましたので、まだ巣立ち直後だと思われました。家と家の間の狭い林ですので中には入り辛く、巣は未確認です。狭い林ですが、巣を架けられそうなスギとヒノキが数本ありました。 高津佳史

\* 前略 梅雨も明け暑い日が続きますがお元気ですか。手賀地区でのキビタキの囀りも7/2及び7/10以降聞けません。繁殖を期待しておりますが、近隣市町村での繁殖記録は如何でしょうか。ウグイスの囀りも少なくなりましたが、泉、手賀、布瀬地区で耳にします。サシバ、オオタカも繁殖し、環境は良いが、これら谷津田・山林をいつまでも大事にしたいものです。 志賀鉄雄

\* うっとうしい天気が続いていますが、会員の皆様におかれましてはお変わりないことと、お喜び申し上げます。さて、拙宅の隣

の根戸小学校で、先週半ばごろより耐震補強大規模改修工事が始まりました。工事前は多くのツバメが飛び交っていましたが、今は校舎の周囲を養生ネットで覆われその姿を見ることが出来ません。同小学校も開校以来30年の時を重ねてきた関係で、老朽化が進みやむをえないことかも知れませんが、もう少し教育的配慮があっても良かったのではないかと残念でなりません。もうすぐ夏休み、その間を有効に使っての工事とも思いますが、何か複雑な思いがしてなりません。工事が完成し、来年もまた、営巣してくれるかどうか、心配です。時節柄皆様、お体をお大事に。 柴田祐一

\* 私は、平成15年夏に開催された我孫子野鳥を守る会の納涼会の後、有志による第二次親睦会で転倒し、救急車で慈恵医大病院へ運ばれ脳挫傷と診断されました。同病院を退院後は、田中農協病院へ通院していました。8月末には、医師の最終確認の診断を受けて、2年間にわたった治療が完了する予定です。この事故に際し、多くの会員の諸兄に大変お世話になりました。本来であれば、その際お世話になった会員各位に個別に謝意を述べるべきですが、それに代えて、謝意とご報告を兼ねて、小額ではありますが、我孫子野鳥を守る会に寄付をさせていただきたく存じます。 田丸喜昭

## お知らせ

### 【ご寄付】

中村宏様、坂巻道代様、間野吉幸様、鈴木五郎様、田丸喜昭様よりご寄付を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

## 投稿のお願い

会員の皆さんからの探鳥記、楽しい話題、スケッチ、写真等の投稿をお待ちしています。

投稿先 小玉文夫まで

〒270-1144 我孫子市東我孫子1-2 8-8

Fax 04-7139-8260

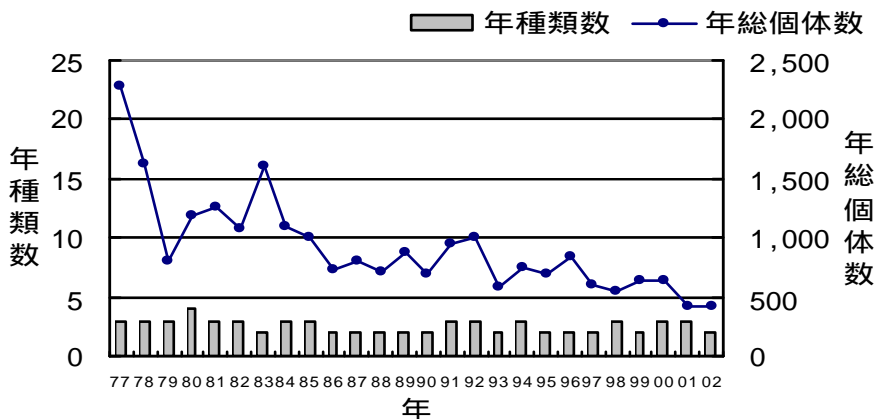
## 鳥 だ よ り

- |  |   |
|--|---|
| 05.18 [片山新田] 朴 <sup>ク</sup> ス(1)飛翔<br>中森純也       | 05.20 [高野山新田] 材 <sup>ク</sup> (1)囀り<br>中森純也                                |
| 05.18 [上沼田] コ <sup>ク</sup> サ(2)囀り 中森純也           | 05.21 [泉] 牝 <sup>ク</sup> サ(1)囀り 志賀鉄雄                                      |
| 05.18 [上沼田] 材 <sup>ク</sup> サ(6)囀り 中森純也           | 05.21 [片山] 牝 <sup>ク</sup> サ(1)囀り 志賀鉄雄                                     |
| 05.18 [中峠村下] ア <sup>ク</sup> サ(4)飛翔<br>中森純也       | 05.21 [手賀谷津田] チ <sup>ク</sup> サ(1)採餌<br>志賀鉄雄                               |
| 05.18 [岡発戸新田] チ <sup>ク</sup> サ(15)NR<br>中森純也     | 05.21 [布瀬新田] チ <sup>ク</sup> サ(2)採餌<br>志賀鉄雄                                |
| 05.18 [岡発戸新田] 牝 <sup>ク</sup> (1)飛翔<br>中森純也       | 05.21 [柳戸] 材 <sup>ク</sup> (1)樹上枝に 志賀鉄雄                                    |
| 05.18 [岡発戸新田] チ <sup>ク</sup> サ(1)飛翔<br>中森純也      | 05.21 [柳戸] 牝 <sup>ク</sup> サ(1)囀り 志賀鉄雄                                     |
| 05.18 [岡発戸新田] チ <sup>ク</sup> サ(2)求愛行動<br>中森純也    | 05.22 [手賀] 牝 <sup>ク</sup> サ(1)囀り 志賀鉄雄                                     |
| 05.18 [岡発戸新田] 材 <sup>ク</sup> サ(1)囀り<br>中森純也      | 05.22 [藤ヶ谷] 牝 <sup>ク</sup> サ(1)囀り 志賀鉄雄                                    |
| 05.18 [岡発戸新田] チ <sup>ク</sup> サ(3)囀り<br>中森純也      | 05.23 [布瀬] 牝 <sup>ク</sup> サ(1)囀り 志賀鉄雄                                     |
| 05.18 [岡発戸新田] サ <sup>ク</sup> サ(1)飛翔<br>中森純也      | 05.24 [藤ヶ谷] 材 <sup>ク</sup> (1)林で声 志賀鉄雄                                    |
| 05.18 [岡発戸新田] ム <sup>ク</sup> サ(2)休息<br>中森純也      | 05.25 [手賀] ヤ <sup>ク</sup> サ(1)囀り 志賀鉄雄                                     |
| 05.18 [岩井新田] サ <sup>ク</sup> サ(1)飛翔 中森純也          | 05.25 [北新田] 牝 <sup>ク</sup> (1)カスに絡まれ飛去<br>中野久夫・金成典知                       |
| 05.18 [高野山新田] 材 <sup>ク</sup> サ(1)狩り(カバト)<br>中森純也 | 05.25 [北新田] ノ <sup>ク</sup> (1)帆翔 中野久夫                                     |
| 05.18 [高野山新田] ク <sup>ク</sup> サ(1)NR 中森純也         | 05.26 [片山] 牝 <sup>ク</sup> サ(1)囀り 志賀鉄雄                                     |
| 05.18 [高野山新田] 牝 <sup>ク</sup> サ(1)囀り<br>中森純也      | 05.27 [若松] ヒ <sup>ク</sup> サ(2)飛翔 中森純也                                     |
| 05.18 [高野山新田] シ <sup>ク</sup> サ(8)繁殖行動<br>中森純也    | 05.27 [若松] 材 <sup>ク</sup> サ(1)囀り 中森純也                                     |
|  | 05.28 [東中新宿] ツ <sup>ク</sup> (1)6:52住宅地の電線<br>に止まったムクドリを追いかけて渡来し<br>た 飯泉 仁 |
|  | 05.29 [久寺家] イ <sup>ク</sup> サ(1)つくし野川で<br>中野久夫                             |
|  | 05.31 [北新田] チ <sup>ク</sup> サ(2)西へ飛翔<br>中野久夫                               |
|  | 06.06 [緑2丁目] ア <sup>ク</sup> サ(1)鳴き声<br>鶴見みや古                              |

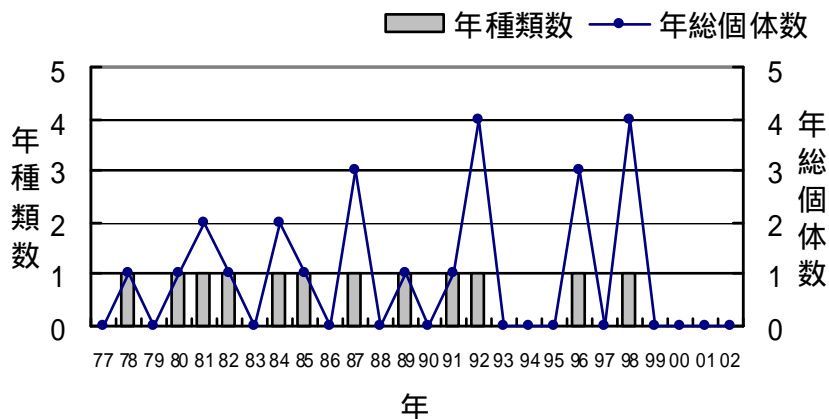
06.06 [若松] コシキリ(2)囀り	中森純也	07.02 [我孫子市]カ(5)	高津佳史
06.07 [手賀] サコウチヨウ(1)囀り	志賀鉄雄	07.09 [北新田] 材効(1)河川敷の柳中	中野久夫
06.10 [中原] 雫(1)鳴いていた	飯泉久美子	07.10 [布瀬] ヤマガラ(1)声	志賀鉄雄
06.10 [柏イトーヨーカ堂柏店] チョウゲンボウ(2)換気溝に営巣しているペア	飯泉久美子	07.10 [手賀沼] チウヅク(1)下沼	飯泉 仁・久美子
06.12 [高野山] チョウゲンボウ(1)小鳥を足につかみながら飛翔	飯泉 仁・久美子	<b>今回の観察者の総投稿件数</b>	
06.12 [染井入新田] チウヅク(1)下沼	飯泉 仁・久美子	赤尾 完	2
06.12 [片山] 材効(1)雄、キキキと枝に止まって鳴いていた	飯泉 仁・久美子	飯泉 仁	33
06.14 [手賀新田] チウヅク(1)採餌	志賀鉄雄	飯泉久美子	5
06.17 [片山] ヤマガラ(1)囀り	志賀鉄雄	飯泉 仁・久美子	75
06.19 [布瀬新田] トビ(1)物色飛翔地上に降りる	志賀鉄雄	大久保陸夫	15
06.25 [岡発戸新田] コノハチヨウ(3)橋下遊泳	桑森 亮	桑森 亮	8
06.25 [岡発戸新田] オハシ(4)橋下遊泳	桑森 亮	志賀鉄雄	259
06.25 [岩井新田] ミコ(1)杭上	桑森 亮	志賀洋子	2
06.25 [手賀] 材効(1)声	志賀鉄雄	首藤佑吉	2
06.27 [北新田] ヲシギ(1)越流堤池で採餌	中野久夫	諏訪哲夫	2
07.01 [柳戸] サコウチヨウ(1)声	志賀鉄雄	高津佳史	1
		鶴見みや古	1
		中野久夫	26
		中野久夫・金成典知	18
		中森純也	68
		西巻 実	2
		松田幸保	1
		<b>総計</b>	<b>520</b>

「手賀沼の水鳥」(我孫子野鳥を守る会：手賀沼の鳥 . 2004 . より)

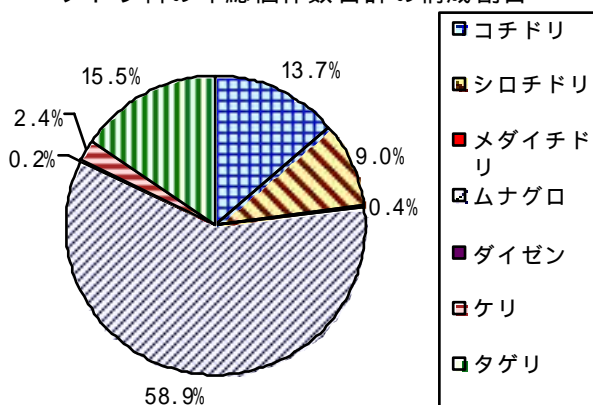
クイナ科の年種類数と年総個体数の推移



## タマシギ科（タマシギ）の 年種類数と年総個体数の推移



チドリ科の年総個体数合計の構成割合



### 我孫子野鳥を守る会会報 No186 2005年(9～10月号)

発行 2005年9月1日

発行人 間野吉幸 我孫子野鳥を守る会 会長

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270-1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel 04-7182-3972

振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円(大学生、高校生 1,000円

中学生以下 500円 家族会員 無料)